

足が枝をはなれたかと思うと、四郎のからだは、ゴムマリののように丸くなって、落ちてきました。地上すれすれのところで、ゴムマリは、すうっとまっすぐになって、びっくりしている友だちの前に立ちました。

「まだ、もう少し練習しなければだめなんだ。ひざと腰がかたいんだよな。地面につくとき、音もなく、すうっとおりられればいいんだけどな。」  
これは、四郎が、ねこを見て考えたのです。ねこは、どんなふうにも、ほうり

